

広島港におけるアカカミアリの確認について

1 要旨・目的

広島港海田コンテナターミナルにおいて、特定外来生物であるアカカミアリが確認されたため、経緯及び対応状況を報告する。

2 現状・背景

平成29年度に県内の港湾施設で特定外来生物であるヒアリが確認されたことに伴い、本県では環境省による全国65港湾の調査とは別に、侵入調査及び初期防除対応を行う県独自のヒアリ対策業務を毎年度行っている。今回のアカカミアリの確認については、当該対策業務で確認されたものである。

定期調査の概要

- (1) 調査対象の特定外来生物
ヒアリ、アカカミアリ、コカミアリ
- (2) 調査範囲
県内のコンテナターミナル（広島港、福山港、大竹港）
- (3) 調査内容
 - ア 目視調査
4月～10月：月2回（広島港国際CTは、6月～10月は月4回実施）
11月～3月：月1回（誘引剤を散布した後、実施）
 - イ トラップ調査
4月～10月：月1回

3 概要

(1) 発見経緯

広島港海田コンテナターミナルのヤード上で、ヒアリ調査受託業者（広島県薬業株式会社）が目視による定期調査を行っていたところ、7月26日（火）にコンクリートのひび割れからヒアリの疑いのあるアリが数十匹発見された。専門家による当該アリの確認の結果、7月28日（木）に特定外来生物であるアカカミアリと同定された。（最終的にアカカミアリ208匹が確認された。）



今回のアカカミアリの確認は、県内では2事例目である。

※1例目：平成29年に広島市の事業者敷地内で有翅女王アリ^{ゆうし}3匹の死骸を発見

(2) 対応状況

- ア 発見したアリは直ちに殺虫剤により殺虫処分を実施した。
- イ 殺虫処分後、発見場所周辺を目視調査を実施するとともにベイト剤（毒餌）及びトラップを設置した。（現在までにアカカミアリの発見報告はない。）
- ウ 海田コンテナターミナルを主に利用している港湾利用者を通じ、同ターミナルに出入りするコンテナの配送に携わる全ドライバーへ注意喚起を実施した。
- エ コンテナ経由の侵入経路は、具体的には特定されていない。

(3) 今後の対応

- ア 港湾運営会社や指定管理者等と連携し、県内のコンテナヤード内の舗装を再点検し、ひび割れを埋めるなどの定着を防止するための工事を実施する。
- イ 環境省中国四国地方環境事務所と連携し、発見場所周辺について調査を継続し、同様のアカカミアリが発見された場合には、速やかにその個体を殺虫処分するとともに防除を実施する。
- ウ 目視及びトラップの定期調査は継続する。

4 その他（アカカミアリについて）

アメリカ合衆国南部から中米が原産国であり、ヒアリに比べて毒性は低いものの、刺されるとアルカロイド系の毒によって非常に激しい痛みを覚え、水疱状に腫れることがある。

また、雑食性で、ヒアリと同様に攻撃的で高い採餌能力を持ち、小型節足動物などを捕食し、在来の生物多様性を減少させることが知られている。

フィリピンや台湾で分布が確認されており、日本では小笠原諸島の硫黄島や、沖縄県の米軍基地周辺に確認されている。かつて米軍の物質輸送にまぎれ込んで侵入したものと考えられている。